

厚生文教常任委員会会議録

- 1 日 時 令和5年8月21日(月)
9時57分開会 11時45分閉会
- 2 会議場所 役場3階 第1委員会室
- 3 出席議員 委員長：川上 均 副委員長：橋本晃明
委 員：山本奈央、桜井崇裕、佐藤幸一、西山輝和
議 長：山下清美
- 4 事務局 事務局長：大尾 智、事務局次長：川口二郎
- 5 説明員 教育長：山下 勇、学校教育課長：渋谷直親、同補佐：下保朋子、
清水高等学校長：江尻 巧
- 6 議 件
(1) 所管事務調査について
(2) まとめ
(3) その他
- 6 会議録 別紙のとおり

(1) 所管事務調査について

【開会 9 : 5 7】

委員長 (川上 均) : 只今より厚生文教常任委員会を開催する。本日は清水高等学校への支援策の現状についてということで、過去遡って 4 回、5 回くらい調査しているけれども、直近の状況を教えていただきたくて本日はお集まりいただいた。早速、説明員のご紹介をいただき説明をお願いする。

学校教育課長 (渋谷直親) : 【説明員紹介】資料に基づき説明。

清水高等学校長 (江尻 巧) : 資料に基づき説明。

委員長 : 説明頂いた内容を参考に、皆さんの方から質問があれば受けたい。

桜井委員 : 進学傾向があるので支援事業を拡充したいという話があった、また、校長先生からは、高校から年間のスケジュール等を見直されて、今後積極的に清水町の中学校に働きかけるといってお話もあった、コミュニティスクールについても行うということであるので、地元にも多くの卒業生がいるので、何かお手伝いができればいいと思っている。また、アイスホッケーですばらしい成績を収めているということで、町の方も北海道教育委員会の方に働きかけたということも伺ったので、所管の中でしっかりと議論して町はどう考えているのか、振興会がどう考えているのかというのを伺った中で、今後、予算の中でしっかりと考えていきたいと思っているところである。

橋本委員 : 情報発信が大事だと思った。課長から清水高校に入ってみたら良かったという話があったが、入ってみたら良かったということは、要するに入るまでどんな中身かはよくわからなかったということだと思う。そこが将来的に地域に貢献していける人材になるのかということをはっきり伝わればいいという部分、あと、帯広、芽室から私立にとられてというのは致命的で、もうだめかなという印象もあったけれども、今伺った感じではまだまだそうでもないし、進学で特に大学の方も学生が欲しいので、それに合わせたような人材を作っていくということができればいいと思う。学校のプログラムと生徒が学びたいもののイメージの違いとかは、どのように高校の中で築いていくのか何かあれば伺いたい。

江尻校長 : 系列自体どんな系列があったらいいかということを生徒に聞いたことはない。ただ、科目に関しては、どんなことがやりたいかという中で、科目を設定していくということは考えられる。特に学校設定科目という、学校が独自に決めることができる科目というのを高校は持っている。その中で、例えばうちでいくと、科学技術系列、コンピューターサイエンスという科目があったり、芸術では音楽美術が一緒になって生涯アートという科目を持っていたり、食品開発実践という作るだけではなくて、原価計算だとか産地など、売り上げを最後まで計算するところだとか、あとはエアロビクス、第九、陶芸、など各教科で生徒から聞いてという話はしている。

教育長 (山下 勇) : 私も情報発信が大きな課題だったと思っている。自分たちがやっていることをうまく伝えないと理解してもらえないので、パンフレットが新しくできたり、動画を撮影したり、あるいは、毎週金曜日に FM-JAGA で子供たちが出て、先生が出て頑張っている事や学校のいいところを PR している。そういうことを伝えることによって、保護者や対象の中学生が、行ってみたいと言ってもらえるような魅力を伝えることと、学校での魅力づくりを進めていただければと思っている。PR して理解していただかないと選

択肢に入っていないので、その選択肢の中の1つに清水高校があるというようになってもらえれば発展していくのではないかと考えている。その努力を振興会を中心としながら、高校生も入って盛り上げていこうということで教育委員会としてもサポートしながら頑張っていきたいと思っている。

渋谷課長：情報発信の補足であるが、2年前からFM-JAGAと協力をして、毎週金曜日、朝の8時15分頃から15分番組で清水高校の生徒たち、先生方々が出演していただいて10月まで放送する予定である。実際、第1回目は生放送で先日行った。リスナーさんからもすごく反響が良かったと、メディア的なものを活用したり、次に出るChaiにも清水高校のページということで、半ページいただいて特集で2か月程続けてやろうと思っている。まず、皆の目と耳に清水高校というのを見せる、新聞にも記事があれば載せるとか、視覚的、聴覚的に訴えていこうという活動は続けて実施しているので、ぜひ聞いてもらえたらと思っている。

山本委員：親のイメージが子供にも伝わるから、清水町外の方もそうだが、町内の保護者の方に情報発信をしていただければと思う。

渋谷課長：町民の方に発信はしていなかった。FM-JAGAのホームページとかインスタグラムには出していた。

山本委員：個人情報の問題もあって難しいとは思いますが、親の世代が見られる情報もあつたらいいと思う。

渋谷課長：情報はすごく大切だと思うので、そこは学校と振興会と話して、プライバシーに配慮しながら意見を参考に考えていきたいと思う。

学校教育課長補佐（下保朋子）：補足になるが、もしできるのであれば、今放送されているものを録音したものをFM-JAGAからいただいて、町内の中学校にお昼休みの昼食時間とかに流してもらえないかというのもお願いしていきたいと思っている。

佐藤委員：芽室からの入学者が多いと思うが、どんな思いでいるか。

渋谷課長：芽室の教育委員会とも話をしたところ、芽室から清水に多く来るが、芽室も町内から進学するのが3割、4割くらいしかないということらしい。芽室、清水、帯広の交通の利便性がいい、清水町からは24%が柏葉、三条の進学校に行かれて、17%が私立に行かれて、その分、押し出された分の帯広の子どもたちが芽室に来てというところが人数的な歪がある。特徴的な話をすると、帯広北高校だとサッカーがすごく有名であるが、トップの選手達は枠があって、ただ、他のサッカーをやりたい子供達もできるという形で生徒を呼び寄せているところもあるようである。先日清水高校で部活の様子や話を聞いた時に、逆に清水高校でサッカーを始めたかったという生徒もいた。

佐藤委員：過去に町外から来た生徒から良くない評判を耳にしたことがあったが、今はそのようなことはないか。

渋谷課長：ここ数年そういった話は聞いたことがない。

西山委員：生徒を多く集めるという事は非常に難しく、人口の推移を見ても一番の原因は、帯広の子供達が清水高校へ来なくなったというのが一番の要因で、帯広大谷高校があれば学級数を増やして引き寄せたのが清水高校には痛手が大きくて、1クラス減ったというように感じている。芽室中学から多く来てもらえているので、なんとか維持できるのは思っているけれども、2間口を続けていくというのがこれからはやっとならないかと危惧している。

渋谷課長：3間口と2間口だと選択科目が一気に減ってしまう、魅力が下がってしまう、かつ先生も減ってしまう、そういったところを一番危惧しているところである。2年続けて定員を割っているところが、高校の配置の担当者が良しとしても客観的にどう生徒を集めていくのかということを経済に訴える時に、具体的にどういふことをやれるのかという厳しい意見もあった。

西山委員：去年の予算を見ると、部活動の支援事業が0円になっていて、今年は400,000円予算付いていて、アイスホッケーだけということにはならないけれども、少しでも予算付けてもらえて良かったと思っている。

渋谷課長：決算で0円となっていて、申し訳なく思っている。ただ、予算は付けさせていただいたところであるが、学校へのPR、周知、コロナもあってなかなか活動ができなかったというところでもあるが、今年度、校長先生も良く理解していただいているので、予算をしっかりと使って、子どもたち、先生の環境が良くなるように考えて使って欲しいと話しているので、今年度については部活動の支援についても積極的に支出していく。

西山委員：ホッケー部でバスを所有して、父母会で運営しているが、ガソリン代とか維持費に莫大な経費がかかっている。これをなんとか振興会を通じて教育委員会の方で支援できたらいいと思うが。また、地方から来ている親御さんが、子どもたちに経費が掛かりすぎて、考えなければならないと悩んでいる親が結構いる。大学行くのと同じくらいの経費がかかるといふことで苦慮している方も多いので、このままいくと、おそらく地方からくる人が少しずつ減っていくのではないかと心配している。

渋谷課長：振興会の予算なので、この場で積極的に了承することはできないけれども、会長や理事とも相談して、そのような支援が可能かということには調べさせていただきたいと思う。バスの維持も振興会から支出することが適切なのか、それは保護者の負担でやるべきなのか、元々所有しているのは学校ではなくてPTAの保護者の方々の所有なので、支出が適当かどうかといふのは改めて相談させていただきたいと思う。

西山委員：体験入学が今年は年2回にされて、夏休みの間に積極的にやっていただくと、来る子供達も親御さんもいい時期なので良かったと思っている。

委員長：一通り質問等を出していただけたけれども、その他何かないか。

山本委員：町外に行った時に清水町にはいい高校があると、もっと宣伝したいと思ったが、それには見ることも必要だと思ったが、清水高校の皆さんとお話する機会を持つことは可能か。

渋谷課長：議会議員として清水高校の保護者やそういう調査をするという立場の中では、当然道教委に了解をいただくとか、高校に直接言ってお願ひするというのではないと思う。ただ、議員の活動として保護者の方を個人的な寄り合いの中で話を聞くという分にははばかるものはないと思う。

山本委員：保護者の立場として知るのもいいと思うが、それ自体は学校見学に申し込めばよいといふことか。

江尻校長：本校は町民の方、もしくは十勝西部の方は本校のエリアとの認識があるので、お一人でも10名でも、地域の方といふことであれば、学校見学に来たいといふのであれば許可できると思う。

山下教育長：地域参観日もあるし、それ以外でもお電話いただければ結構だと思う。

佐藤委員：清水町の支援だが、各町力を入れてやっている。清水町ももう少し力を入れてやっていただきたいと思う。

渋谷課長：皆さんの意見をいただいて、学校教育課だけでできることではなくて、皆さんのお力添えと意見、何よりも高校と揃って魅力を高められると思っている。

委員長：他に皆さんから何かないか。

（「はい」との声あり）

委員長：以上を持って調査を終了する。暫時休憩する。

【休憩：11：30】

【再開：11：37】

（2）まとめ

委員長：休憩前に引き続き会議を開く。本日のまとめについて皆さんから気がついたことがあれば出していただきたいと思う。

西山委員：皆さんが言われた意見がもっともであったので、それをまとめていただければ結構である。

佐藤委員：委員長にお願いします。

山本委員：たくさん意見が出ていたので、それをまとめていただければいいと思う。

橋本委員：質疑と説明と答えていただいたものを要約していただければいいと思う。

委員長：私と副委員長と相談しながらまとめをしていきたいと思う。今後の進め方であるが、審査について継続するのか、それとも審査を終了するのか皆さんの意見をいただきたいと思う。

西山委員：終了していいと思う。

桜井委員：結審していいと思う。

委員長：今回の清水高校への支援策の現状については、審査をこれで結審していいという意見が多かったので、これをもってこの件については審議を終了していきたいと思う。まとめを作成して9月議会で報告する形にしたいと思うのでよろしくお願いします。暫時休憩する。

【休憩：11：42】

【再開：11：43】

委員長：休憩前に引き続き会議を開く。報告については議会に間に合うような形で作成したいと思うのでよろしくお願いします。

（3）その他

委員長：次回の委員会は9月5日、火曜日、本会議終了後で予定したいと思う。それでは、これで厚生文教常任委員会を終了する。

【閉会 11：45】